

サロンあべの

詩を物語る

〈サロン・あべの〉1月の出会い

平成22年1月16日(土)、(サロン・あべの)1月の出会いは、育徳コミュニティセンター1研修室で、「詩」との出会いでした。

今年の新成人は全員が平成生まれ。思えば大正はもちろん昭和も遠くなったものです。とはいえ、その時代時代に活躍した人々の功績や作品は足跡として大きく残っています。

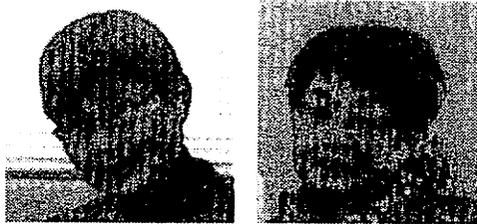
大正から昭和、平成に、詩の世界に名を馳せた日本の3人の女流詩人と、19世紀初頭に活躍したイギリスの桂冠詩人、作風の異なる4人の詩を朗読で味わいました。

- 茨木のり子
古歌・倚りかからず・わたしが一番きれいだっただとき・誤算・電報
- 金子みすゞ
女王さま・私と小鳥と鈴と・私の髪の花のたましひ
- 島田陽子
あいうえおおさか くだおれ
- 3人の詩人の朗読は山岸麻耶(日本語教師 写真)さん
- アルフレッド・テニスン
イノック・アーデン

物語詩の朗読は浅田幹子(言能話し方アカデミー主宰 写真左)さん

朗読・山岸麻耶さん

茨木のり子



同人誌「権」を創刊し、谷川俊太郎・大岡信・吉野弘など第2次戦後派と呼ばれる新鋭詩人を多数輩出しました。戦後詩を牽引した日本を代表する女性詩人で、童話作家、エッセイスト、脚本家でもあります。戦中・戦後の社会を感情的側面から清新的に描いた叙情詩を多数創作しています。「わたしが一番きれいだっただとき」は多数の国語教科書に掲載され、彼女の最も有名な詩のうちの一つです。詩集「倚りかからず」は、朝日新聞の「天声人語」で取り上げられて話題になり、詩集としては異例の15万部のベストセラーになりました。平成18年2月死去。享年79。

■古歌

古い友人は
縋帯でも巻くように
ひっそりと言う
「大昔から人間はみんなこうしてきたんですよ」

素直に頷く

諦められないこともを

みんななんとか受け止めて

受け入れてきたわけなのですね

今ほど古歌のなつかしく

身に沁み透るときはない

読みびとらしくの挽歌さえ

雪どけ水のようにほぐれきて

清冽の流れに根をひたす

わたしは岸辺の一本の芹

わたしの貧しく小さな詩篇も

いつか誰かの哀しみを少しは灌うこともあるだろうか

■ 倚りかからず

もはや

できあいの思想には倚りかかりたくない

もはや

できあいの宗教には倚りかかりたくない

もはや

できあいの学問には倚りかかりたくない

いかなる権威にも倚りかかりたくない

ながく生きて

心底学んだのはそれぐらい

じぶんの耳目

じぶんの二本足のみで立っていて
なに不都合のことやある

倚りかかるとすれば
それは

椅子の背もたれだけ

■ わたしが一番きれいだったとき

わたしが一番きれいだったとき

街々はがらがら崩れていつて

とんでもないとところから

青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき

まわりの人達が沢山死んだ

工場で 海で 名もない島で

わたしはおしゃれのきつかけを落してしまった

わたしが一番きれいだったとき

だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった

男たちは拳手の礼しか知らなくて

きれいな眼差だけを残り皆発つていった

わたしが一番きれいだったとき

わたしの頭はからっぽで

わたしの心はかたくなで

手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき

わたしの国は戦争で負けた
そんな馬鹿なことであるものか
ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき

ラジオからはジャズが溢れた

禁煙を破ったときのようにくらくらしながら

わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

わたしが一番きれいだったとき

わたしはともふしあわせ

わたしはともとんちんかん

わたしはめっぽうさびしかった

だから決めた できれば長生きすることに

年とつてから凄く美しい絵を描いた

フランスのルオー爺さんのように

ね

■ 誤算

あら 雨

あじさいがきれい

このブラウス似合いますか？

お茶が濃すぎるぞ

キヤット！ こきぶり

あの返事は書いておいてくれたか

レコードももう少し低くして 隣の赤ちゃん目をさ
ますわ

とりとめもない会話

気にもとめなかった なにげなさ

それらが日々の暮しのなかで

どれほどの輝きと安らぎを帯びていたか

応答ものんびりした返事も返ってこない

一人言をつぶやくとき

自問自答の頼りなさに

思わず顔を掩ってしまう

かつて

ふんだんに持っていた

とりとめなさの よろしさ

それらに

一顧だに与えてこなかった迂闊さ

■電報

オイシイモノヲ サシアゲタシ

貴公ノ好物ハ ヨクヨク知りタレバ

ネクタイヲ エラシクサシアゲタシ

ハルナツアキフユ ソレソレニ

モットモット看病シテサシアゲタシ

カラダノ弱点アルガゴトクアラワニ見ユ

姿ナキイマモ

イマニイタルモ

金子みすゞ

大正末から昭和初期にかけて活躍した童謡

詩人。大正12年9月に「童話」「婦人倶楽部」

「婦人画報」「金の星」の4誌に、斉に詩が掲

載され、西條八十から「若き童謡詩人の中の

巨星」と賞賛されました。大正15年に結婚。

しかし、夫は女性問題を原因に叔父の書店を

追われ、みすゞは夫に従ったものの、自暴自

棄になった夫の放蕩は収まらず、後ろめたさ

からかみすゞに詩の投稿、詩人仲間との文通

を禁じました。さらにみすゞに淋病を感染さ

せるなどしたことから昭和5年正式に離婚。

みすゞは、娘の親権問題で夫と係争。娘を自

分の母に託すことを懇願する遺書を遺し服毒

自殺。26歳の若さでこの世を去るまでに51

2編もの詩を詠みました。

■女王さま

あたしが女王さまならば

國中のお菓子屋呼びあつめ、

お菓子の塔をつくらせて、

そのてつべんに椅子据えて、

壁をむしって喰べながら、

いろんなお布令を書きませう。

いちばん先に書くことは、

「私の國に棲むものは、

子供ひとりにお留守居を

させとくことはなりません。」

そしたら、今日の私のやうに

さびしい子供はゐないでせう。

それから、つぎに書くことは、

「私の國に棲むものは

私の毬より大きな毬を

誰も持つこと出来ません。」

そしたら私も大きな毬が

欲しくなることとせう。

■私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、

お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のやうに、

地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、

きれいな音はでないけど、

あの鳴る鈴は私のやうに

たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがつて、みんないい。

■私の髪

私の髪の光るのは、

いつも母さま、撫でるから。

私のお鼻の低いのは、
いつも私が鳴らすから。

私のエプロンの白いのは、
いつも母さま、洗ふから。

私のお色の黒いのは、
私が煎豆たべるから。

■花のたましひ

散ったお花のたましひは、
み佛さまの花そのに、
ひとつ残らずうまれるの。

だって、お花はやさしくて、
おてんとうさまが、呼ぶときに、
ぱつとひらいて、ほほゑんで、
蝶々にあまい蜜をやり、
人にや匂ひをみなくれて、

風がおいでとよぶときに、
やはりすなほについてゆき、

なきがらさへも、ままごとの
御飯になつてくれるから。

島田陽子

昭和4年東京生まれ、11歳から大阪在住。
日本童謡協会、日本現代詩人会、日本詩人ク
ラブ、詩と音楽の会会員。詩、童謡、童話、
レコードの他、曲集・合唱組曲「おおさか風
土記」「おおさかクラフティ」「大阪ことばあ
そびうた」「木と草と花のパレード」まで、言
葉に関わる活動は多彩です。「あいうえお
さか くだおれ」はテンポよくあいうえお
順に最後は「わ」まで大阪言葉と大阪馴染み
のうまいもので綴られていく詩です。全部読
んでいくと、かなりおながへつてきます。

■あいうえおさか くだおれ

あの子に あげたい あわおこし
いつしよに たべたい いろごはん
ういろは さいぜん もろたけど
ええもん ほしい まだたらん
おこのみやきを やいてえな

かもうり かすじる かんとだき
きもすい すきな おじいちゃん
くしかつ 日エない おばあちゃん
けつねの おいしい みせのこと
こんまき たべたべ いうてはる

さいなら さやまめ さんどまめ
しつぽく したので またあした
すねる子 すうどん うちすかん

せんぎり ゆびきり せえろそば
そうめん そんでに なかなおり

たこやき たらふく たべたもん
ちりめんじゃこも はいれへん
つうてんかくで ひるねして
てつちり ゆつくり たべにいこ
どつこの みせかて にげへんテ

なべやきうどんは あつたつ
にゆうめん ほどよう たべごろに
ぬくずし はんなり おまつとはん
ねぎまも ぐつぐつ ゆげたてて
のうれん たのしい たべあるき

はこずし ばらずし ばつてらに
ひろうす よばれて ひいくれて
ふるふき ぶぶづけ ごつつおはん
へたつて しもた ゆめんなか
ぼたもち かにして もうあかん

まむしは うなどん においがええ
みたらしだんごは みつがええ
むしずし なつより ふゆがええ
めおとせんざい なまえがええ
もみじの てんぶら おとがええ

やしんぼ やめとこ やわたまき
ゆうみそ そばから てエだして
よつびて しくしく おなかい

らりるれ ろオじで ともだが
わろても よんでも おきられへん

朗読・浅田幹子さん

アルフレッド・テニスン

テニスンは19世紀初期のイギリスの桂冠詩人。桂冠詩人とは、政府等によって公式に任命された詩人またはその称号で、イギリスでは王家が桂冠詩人の称号を与え、王家の慶弔の詩を読むことになっています。テニスンはリンカンシャー州サマズビーに牧師の子として生まれました。1831年までケンブリッジ大学に学び、30代ころからヴィクトリア王朝文学の始祖として広く海外にも知られるようになりしました。哀れな水夫の物語詩「イノック・アーデン」は1864年テニスン55歳のときの作品です。今に至るまで読み継がれているのは、その内容もさることながら、テニスンの豊かな詩情と、流麗でそれでいて華美になり過ぎない簡素な表現が、心地よく読み手の胸に響くからではないでしょうか。

■イノック・アーデン

船乗りイノック・アーデンが妻子のために一山当てようと航海に出たものの、遭難して孤島に流され、10数年の歳月を経てようやく故郷に帰つてくると、妻はイノックとも親友だった幼なじみと

再婚して幸せに暮らしているのを知り、再会を果たさず、1人静かに死んでいく。という悲劇を歌っています。南海の孤島で棕櫚の下に佇むイノックの姿を夢に見て、それは彼が死んでエデンの園にいる姿なのだと解釈して結婚するアニー。アニーの結婚の日に鳴り響いた鐘の音を、南海の孤島で幻聴のように聴くイノック。どんな散文でも語りつくせない余情と悲しみが、満ちあふれています。(元の詩は1000行近い長編で、朗読に1時間30〜40分かかるところ、今回は浅田さんが推敲を重ねて30分ほどに圧縮して朗読)

最後に「わたしが一番きれいだったとき」のアンコール朗読を聞き、「詩」と出会って、散文とは違う楽しさを改めて知った(サロン・あへの)1月の出会いでした。(参加者20名 山村 貴司)

ありがとうございました。

カンパ、カップ清酒・お茶菓子のご寄贈、また、サロングッズのお買い上げなどありがとうございました。

- カスタネット、浅田幹子、稲垣恵雄、今西美奈子、上田宏子、桑田加代子、小嶺佐栄子、西面壮一、仲田孝史、長谷川麻美子、東百合子、平岡太、森芳江、山岸麻耶、その他の方々(敬称略)

絵がうたうー

絵とうたうー

童謡♪絵はがき

- ・春 ・海
- ・夏 ・花Ⅰ
- ・秋 ・花Ⅱ
- ・冬Ⅰ ・子ども
- ・冬Ⅱ ・雨
- ・汽車 ・川
- ・5月 ・母
- ・お正月 ・虫

もらった人も、思わず、歌いたくなる、うれしい、楽しい「絵はがき」

童謡♪絵はがき

■5枚1組 ¥180

61

邦子、
..ん歳の手習い。

障害者の自立における障大連の役割

障大連(＝障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議)事務局の細井さんは、かつて青い芝の会で活動していた頃は、「障害当事者が行政と交渉するにも、応接の権利すらなかなかもらえなかった」という経験をもっています。そのような中で、障害者として地域で当たり前に生活していく権利を主張していく運動が続けられました。それらの過去の運動の積み重ねによって、行政と

の交渉の窓は徐々に開いていきました。

1981年の国際障害者年にできた国際年連絡会議が障大連に引き継がれていく中で、最初は、行政交渉をしても10人ぐらいしか集まらなかったのが、いろいろな立場の人や団体を通じて100人、200人と集まるようになってきました。それらの積み重ねによって、障大連は次第に発言権を獲得していき、検討会や協議の場をもち、障害者が発言する機会を作っていました。現在の行政交渉の場では、障害者が地域で生活するための制度をどんなふうにするべきかというやりとりが行われているということです。

それらの話し合いや協議の中では、相手のいうことをできるだけ理解しながら、時には妥協することも必要ですが、障害者が自立して生活する権利を守るという障害当事者の立場を見失わないようにすることが大切です。というのは、最近、行政との話し合いの中で、行政側から「重度の障害者には施設が必要がいますか」との発言があったそうです。その発言を聞き、その場にいた

サロンの絵はがき

一組五枚セット一八〇円

障害者は机を叩いて、その言葉に抗議しました。それは、障害者が地域で自立して生活していききたいという願いからでた行動でした。

細井さんは、「机を叩いたりするという現象は、必ずしもいいとは思わないけれども、みんな大騒ぎになったのは、障害者は重度であればみんな施設に入らなければ仕方がないという考え方を、自分の経験の中で、それを跳ね返していったのだと思います。その当事者の経験に基づく力が大事で、制度も良くしていけるのだと思います」また、「話し合いは、前に進む時もあるし、失敗する時もあります。やるべき時にはやるという考えをもつことが大切で、行政交渉の場は、いろんな制度を勉強し、障害者自らが主張し発言していく場でもある」と語っています。

このように障大連がつくられた目的は、1つには障害当事者の行政交渉を支援することでした。しかし、それだけではなく、「障害者運動の団結というのがもう1つの大きな目標」でした。つまり、障害者団体が連携して、団結して、お互いに助け合っていくということが大きな目標でした。例えば、障大連加盟の団体の中で、今日はどこそこの団体が介護者を派遣しきれないという時に、他の団体と連携して、介護者を派遣していくという機能も果しています。障大連は、主に加盟団体の会費によって運営されています。現在、介護派遣事業所のネットワークの情報誌を加盟団体に毎月出していますが、最近では派遣事業についてややこしいルール改正がたびたびあり、その情報をわかりやすく説明し、見落としがないように情報発信することも障大連の大切な役割であるといえます。

細井さんは、「障害者がお互いに助け合っ
て力を合わせるのが大事で、障害者自身
がエンパワーメントして元気になっていく
と、私たちも元気になっていく」と語って
いました。

(定藤邦子)

晴れのち晴れ—137—

稲垣恵雄・

■きらりちゃん

昨年7月から週に1度、ヘルパーのKさんに掃除に来てもらっている。Kさんには、きらりちゃんという小学校1年生のお孫さんがおられる。

きらりちゃんはしっかりしていて学校の勉強もよくでき、読書も好きだという。それで私の作った絵本「たまごがボン」と「まんまるおにぎり」の2冊をプレゼントした。

するときらりちゃんは、昨年の夏休みの読書感想文の宿題に「たまごがボン」の感想を書いたそう。その感想文は読んでいないが、Kさんは「きらりが『たまごがボン』の絵本が大好きです、と書いて出したそうよ」と言われているのを聞いて、私はすごくうれしかった。

先日、Kさんが「きらりが、こんな物語り

を作ったんですよ」と作品を見せてくださった。物語は「あらあら、よっちゃん」というタイトルで原稿用紙1枚にびっしり書いてあった。あらすじは「よっちゃんは雨が降っているのに学校に傘を忘れて家に帰ります。よっちゃんは『ごめんなさい』と謝るのですが、お父さんは許してくれません。でもお母さんは『いいわよ』と言いながら、よっちゃんを抱き上げてほおずりをしました」というものである。あらすじなので他の読者にはよく分からないと思うが、私はこの物語りを読んでよっちゃんが文才に恵まれていることも然る事ながら洞察力の鋭さに敬服した。きらりちゃん、これからもずっと書き続けてね。将来はきっと素晴らしい作家になると思うよ。



お知らせ

<サロン・あべの>3月の出会い

内容…海ごみからのメッセージ、
 できることからはじめよう
 -地球に優しい暮らしに変えてみよう-

お客さま…梅田アキさん

(ピーチクリーン 土佐代表)

日時…2月20日(土)午後1時~4時

場所…育徳コミュニティーセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL 06-6621-1901

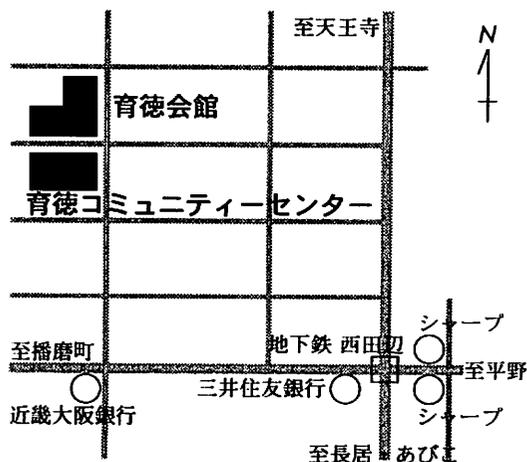
最寄り駅=

地下鉄御堂筋線「西田辺」(エレベーター有)下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



た条件にあったのに、告白してしまうと、やっぱり何かに圧倒されて身動きがとれないような感じになってしまい、ポーツと何時間もインターネットを見ていたりしていた。だから、いつも寝不足で、会議に呼ばれても居眠りをしてしまうこともあった。

インターネットへの依存症なのかなと思っただこともあったが、インターネットを切れば、こんどはまた意味もなく書類の整理を始めたりする。

実は私の部屋には大きなファイリング・キャビネットの引き出し十個分の論文のコピーがある。一つの引き出しに百以上の論文が入っているから、合計で千はあるはずだ。それをみんなアルファベット順に並べて、発行年号もつけたラベルをつけて整理している。それをつくるのに膨大な時間(と、お金)がかかったが、それは、とにかく目の前のことをしなければいけないのに、それができなくて作業に逃げてしまった結果である。

それでもそれが役にたてば良いのだが、この千の論文のリストは数年たつてもほとんど活用したことがない。研究というのは、そのつど論文を探すしかなく、こんなことは全く無駄だったのである。

というわけで、もう午前三時半を回ってしまった。早く寝ないと身体をこわしてしまっただろうか。ああ、全くなんとかならないものだろうか。

(知)

中村かずみ

家族でアメリカ!

ケンタッキー州滞在記

—5—

さて年明けの新学期。日本の小中学校は8日始業式ですね。

ケンタッキー州では2日には登校です。てつきりすぐに下校かと、迎えの時間を確認して怪訝な顔をされました。式典は何もなし、初日から給食もあつて6時間の通常授業が始まるのだそうです。

ところが、2日は突然の休校で3日からの始業になりました。理由は「寒すぎるから!」レキシントンでは、冬には1日中零下が当たり前。スクールバスを待つ間にも、かき氷を食べたように頭がきーンとしてきます。空

気がキラキラと光

るのはダイヤモンド

ドダスト現象?

毎日がスキー場に

いるようでした。

なのに小学校で

は、食後に全員外

に出されていたそ

うです。動かない

と寒すぎるので男

の子はタッチフツ

トボール、女の子

は追いかけてこな

どしていたとか。校内は半袖が丁度よい暖房

なのに、その落差!(夏には上着が欲しいほ

ど冷房がかかっています。エコじゃないで

すね)

雪はよく降りましたが、積もりません。私

たちがいた間10センチも降ったのが最高でしょう

か? それでもよく警報がでて休校になりま

した。雪交じりの強風ブリザードが吹くと、

道に車に樹に降り積もった雪が固まって何も

かもが飴でコーティングしたように凍りつい



サラサラ雪 水をかけて雪玉に

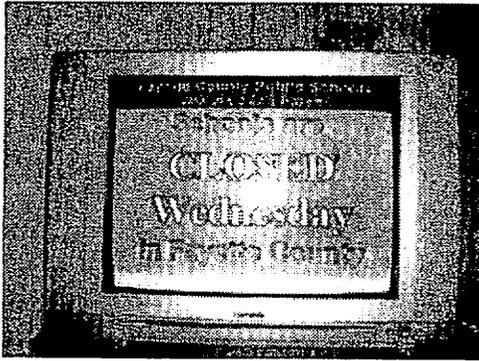


車をべったり覆う氷。道路にもこれが!

てしまうのです。特に舗装路が真っ平らに凍ってはとても歩けません。(実際ご近所の奥さんが、玄関を出た途端に転んで大変な怪我をされてしまいました)

そんなときは休校です。11~2月の間に5回は休校になったでしょうか。

連絡にはケーブルTVが活躍します。普段は学校行事などを放送している地元チャンネルが、休校「CLOSED」の表示を英語とスペイン語で流します。TV地上派放送が



休校を伝えるTV画面

受信しにくくケーブルTV普及率が高いというところもありましたが、この便利なシステムは日本でもぜひ、導入して欲しいと思います。(午後から突然休校になったとして、必ず迎えに行くケンタッキーの親も大変ですが、親が留守でも勝手に帰宅してしまう日本の方法も困るのです)

丸1日休校の時は、朝の5時から「CLOSED」放映が開始されます。早起きのコウジが、毎朝窓の外と地元チャンネルを

チェック「NO SCHOOL! 休校だー」の音が響き渡ると、ねぼすけのサキまでいつもより早く起きてきます。スキーウェアを着る頃にはカズキも起きて、朝ご飯を食べたら雪遊びです!

雪が珍しい大阪育ち、あこがれの雪だるまや雪合戦に挑戦したのですがサラサラのパウダースノーで思うように固まりません。ピニール袋でのそりが一番楽しめましたが、家族だけでは盛り上がりには欠けます。日本人仲間のS家のお子さんたちと雪合戦をした以外は、ついで雪で遊ぶ子供を見かけませんでした。ご近所の小中学生には雪が珍しくなく、零下15度は外遊びには寒すぎたのでしょうか。

となりのオハイオ州にまで足を伸ばすと人工雪のスキー場があり、そこで行われた障害者スポーツ大会に家族で(関係ないコウジとサキも学校を休ませて)参加して来ましたので、今回はその話題をお届けいたします。

映画紹介



恋人们的予感」ジャケット写真

「恋人们的予感」(1989年 96分)

男と女は友達でいられるの? 学生時代から10年もたって再会したハリーとサリーの奇妙で微妙な友情を描くロマンチックコメディ。

大晦日のカウントダウンパーティーの場面、新年を迎えると皆いつせいにキスをします! せっかくのアメリカで迎えた新年、映画のようなパーティーを体験してみたいです。

美智子のこんな話

岸田美智子

引越し準備は大変だあ！

以前このコーナーで、書かせてもらいましたが、2月に車いす住宅に引越すことになり、今はその準備でいろいろ初体験が多く、発見の日々を過ごしています。引越し業者の選定についても書きましたが、結局5つの業者から見積もりを取りました。荷造りから荷解きまでお任せコースで、同じ条件でお願いしましたが、なんと！ 20万円を超える業者から8万円で見積もってくれる業者もあり、金額だけを見てもこれだけの幅がありました！ でも結局、大阪府住宅供給公社から入居説明会の案内状と一緒に同封されていた、引越し業者に連絡をとり、紹介された業者にきめることにしました。この業者にした理由

は、金額も9万円台で、当日派遣してくれるスタッフの人数が男性3人、女性2人の合計5人で多かったのが、スムーズに引越し作業が行くと思つたのと、公社の紹介なので安心感があったので、決めました。実際の引越し当日の作業の仕方やサービスなどがどうなるのか、今から気になってるところです。

そして、先日入居説明会があり、参加してきました。説明会の会場は天満橋にある普通のビルの中の、Aセンターで開かれました。私は、いつものように車いすトイレがあるかどうか気になったので、前もって担当者に聞きました。その時の対応で、「車いすトイレはありません」と言われましたが、そこで私が「車いすの障害者の人が私以外にも来ないのですか？ ではトイレの時どうしたらいいですか？」と聞きました。すると、「そうですね。向かいのシテイモールや、地下鉄の駅には車いすトイレがあると思います。当日来て頂いたときに受付で言ってもらえたら待ち時間なしで対応できるようにしておきます」と言われました。私は、今までも車いす住宅があったのだから対応できるものだ、と思っていたのでなんだかがっかりしてしまいました。私のように車いすトイレのこ

とを言ってくる人はいなかったのかも知れないなあ・・・と思いました。そして、説明会当日に行くと、約束どおり待ち時間がほとんどなく対応してもらいました。が、待つている人への説明のしかたは、「体調が悪いので」という言い方をされていたので、なかなか納得できない気持ちでした。順番を待つている人には、私が元氣そうなのにとか、やつぱり障害者は優先されていいなあ、とか思われるのではないかと、思いましたし、体調が悪いという言い方は、私自身の問題で終わってしまうのではないのでしょうか？ 説明会の案内状の中に一言「会場には車いすトイレがありませんが、お近くの〇〇のトイレをご利用ください」という言葉があればいいし、もし車いすトイレを作るならば、作っていく街づくりにつながってほしいと、私は思いました。

そして、説明会場が5階だったのですが、エレベーターも狭く電動車いす(簡易ではない)では、乗れないスペースでした。これまでの入居説明会には、本当に車いすの障害者が参加されていたのかと、疑問に思いましたし、私が参加させてもらった説明会でも、障害者の方に会うことができなかったので、なんだか寂しいなあと、感じた説明会でした。



3月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いませんか。

問い合わせ先：宮脇淳

☎090-3949-6973

■「サロン淀川」3月の出会い

日時：3月21日（日）午後1時30分～4時

内容：一期一会を大切に、お手前を学ぶ
-人との出会いを一生に1度のものと思
い相手に対し最善を尽くす-

ゲスト：元木富美子さん（淀川区ボランティア
グループ芸一座メンバー）

場所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし

問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー）〒532-0005 淀川区三国本町
2-14-3 ☎06-6394-2900

■「サロン・にし」3月の出会い

日時：3月13日（土）午後2時～4時

内容：楽しいワークショップを体験しよう！

ゲスト：宮脇淳氏、他多数

場所：西区在宅サービスセンター「にしながほり」
大阪市西区新町4-5-14
06-6539-8075

会費：なし

■「サロン・にしよど」3月の出会い

日時：3月27日（土）13時30分～16時

内容：凧作り-凧作り名人を招き、実際に模様を
描いて、公園で上げよう-

ゲスト：狭川一三氏（日本凧の会 凧の会 凧人）

場所：西淀川サービスセンター「ふくふく」
大阪市西淀川区千舟2-7-7

会費：なし

問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」3月の出会い

日時：3月14日（日）午後1時30分～4時

内容：家族円満、マッサージ！

体の痛みは、その部分に手を当てるだけで
痛みが和らぎ癒されます。肩こり・腰痛・
癒しのマッサージ教えます。

パネラー：未定

場所：NPO法人自由空間クラブ
大阪市東淀川区淡路5丁目

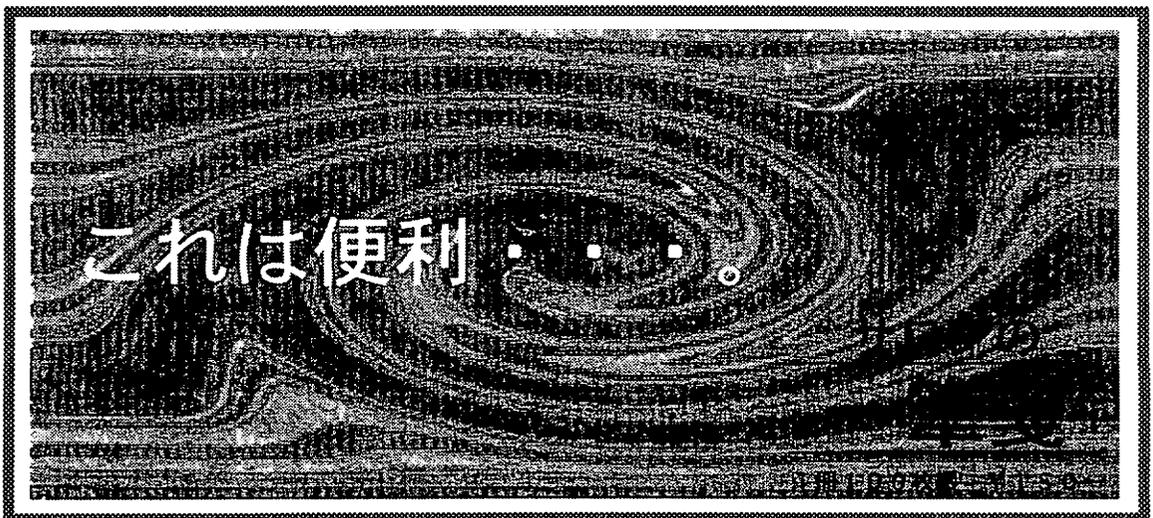
会費：なし

問い合わせ先：鈴木昭二

☎06-6340-3082

FAX06-6340-3012

■「サロンいたみ」3月の出会いはお休みです。



声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第283号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第283号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳DJ)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぱけっと音訳)
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
 - (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
 - (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
 - (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
 - (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

寄りみち



■童謡♪絵はがき・スキー。太平洋戦争中に作られた歌には、軍歌的唱歌が多い中で、スキーの軽快な楽しさを歌ったこの歌はひととき新鮮に感じられます。ところで、スキーの起源は古く、スカンジナビア半島ではBC2500年ごろの壁画にスキーを履いて狩りをする人の姿が描かれているのが確認されています。日本では、明治42年に、八甲田山雪中行軍遭難事件を聴いたノルウェー国王のホーコン7世が明治天皇宛にスキー2台を寄贈したのが、日本とスキーの出会いといわれています。その後、明治44年に、オーストリア陸軍のレルヒ少佐が日本の軍人にスキー技術を伝授したことが、日本でのスキー普及の第1歩とされています。(石)

<サロン・あべの>VOL.284 発行：平成22(2010)年2月20日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)